

第1章 中心市街地の概況

第1節 中心市街地の概況

長野市の中心市街地は市の北東部に位置し、北の地附山とその西に連なる大峰山から伸びる南向きの傾斜地に広がっている。南には犀川、西には裾花川が流れ、裾花川から分水された水路が、まちなかを西から東へと扇型に幾筋も流れている。

この区域は、JR及び長野電鉄の長野駅（以下「長野駅」という。）から善光寺へ至る表参道としての中央通りを中心に、北に善光寺、南に長野駅、東に長野市役所第一庁舎を包摂し、西に隣接する長野県庁を含め、重要な社会資本を四方それぞれに控えた市民の一大交流ゾーンとして、歴史資産と文化の営為を埋め込みながらも、行政・商業・観光・居住機能など高次の近代的諸機能を集積し、かつ交通の要衝でもあるという、数多くの要素が複合した全国的にも稀有な街なみを形成しながら発展してきた。

こうして現在では長野市民のみならず、長野県民、ひいては善光寺への参拝やオリンピック・パラリンピック冬季競技大会で交流した多くの人々にとって、かけがえのない支柱となる区域として、更なる歴史と文化を刻みつつある。

第2節 既存ストックの状況

1 歴史的・文化的資源

長野市は、国宝善光寺の門前町として、平安の昔から全国に知られる都市であり、時代とともに町の形態を整え、北国街道の宿場町あるいは交易地としても栄えてきた。

室町の15世紀頃には、善光寺は「三国一之霊場にして生身弥陀の浄土」といわれ、多くの階層の人々が極楽往生を願って参拝する霊地であり、老若男女を分かず、昼夜を問わず、宗派を超えて開放され、庶民の心の拠り所となっていた。

慶長16年（1611年）に北国街道の宿駅として善光寺宿が設けられると、門前に宿坊が軒を連ねるようになり、旅籠や商家、寺社などを南北に繋ぐ善光寺表参道が形成されるとともに、小路や小道が表参道を軸として格子状に張り巡らされるなど、都市基盤が整備された。現在まで続くこの表参道は、長野駅から善光寺門前までの全長約1.8km、高低差約40mを誇り、門前町としての長野市を象徴するシンボルロードとなっている。

長野駅を起点に表参道を北へと歩いて善光寺へ向かうと、現代的なビルが建ち並ぶ末広町から南石堂町・北石堂町を経て、中間点となる問御所町・新田町付近からは、仁王門と豊かな自然を借景とした稜線が一望でき、西後町・東後町付近からは徐々に低層で和風の建物が増え、大門町付近では階段状に連なる蔵造りの屋根が見られ、宿坊の街なみ・仁王門・仲見世・山門に至るという、徐々に歴史を感じながら善光寺本堂に参る経路が形成されており、日本の歴史と文化を象徴する佇まいが今に引き継がれている。



国宝善光寺

2 景観資源

今日に続く善光寺表参道の景観は、大正13年に行われた、道路の大規模な改修工事が端緒となっている。

改修工事前の道路は幅員が3.6m～5.4mと狭く、坂の勾配も急で、荷車などの往来に支障を来していたが、この改修工事に当たっては、長野駅に近い石堂町を起点に善光寺に近い大門町終点までの路線を直線とし、起点において北を見通せば、一目にして仁王門までの路面と街なみが望み得られる情景を理想に掲げた。

この路線計画に基づき、不揃いの幅員が十間幅（約18m）に拡幅統一されるとともに、高台であった北石堂町付近の路面を最大約1.5m剥き、その残土を低地であった新田町から西後町付近まで運んで均したことで、急勾配が20分の1以下の緩やかな安定勾配に調整され、「善光寺表参道ビスタ（見通し景観軸）」が形成されることとなった。

また、平成24年3月に内閣総理大臣の認定を受けた第二期長野市中心市街地活性化基本計画では、「善光寺周辺地区街なみ環境整備事業」「中央通り歩行者優先道路化事業」などにおいて、修景（主屋・門塀・植栽などの改修）に対する助成や道路の美装化、電線類の地中化などを実施し、まちなかの景観向上に努めた。

これらの結果、善光寺及びその表参道周辺は、市民の意識面での中心的シンボルであるばかりではなく、都市空間においても市のランドマーク的存在となっている。



善光寺表参道ビスタ



善光寺宿坊の街なみ

3 社会資本及び産業資源

中心市街地の区域内には、公共交通の拠点である長野駅と長野バスターミナルが立地するとともに、長野電鉄長野線や路線バスに加え、中心市街地循環バス「ぐるりん号」が運行するなど、交通機能が充実している。

特に善光寺表参道のほぼ中間地点に位置し、国道19号と交差する新田町交差点は、長野県において信号機・スクランブル式横断歩道・音響装置付信号機が初めて採用された交差点であり、数多くの路線バスが行き交うなど、重要な交通結節点となっている。

また、長野駅前には駅ビルを含め大型店舗が集積し、新田町交差点を挟んで2つのシボルの公益施設、表参道には小規模な個人商店が軒を並べ、善光寺門前には古民家や空き蔵などをリノベーションした個人店舗やカフェが多数立地している。

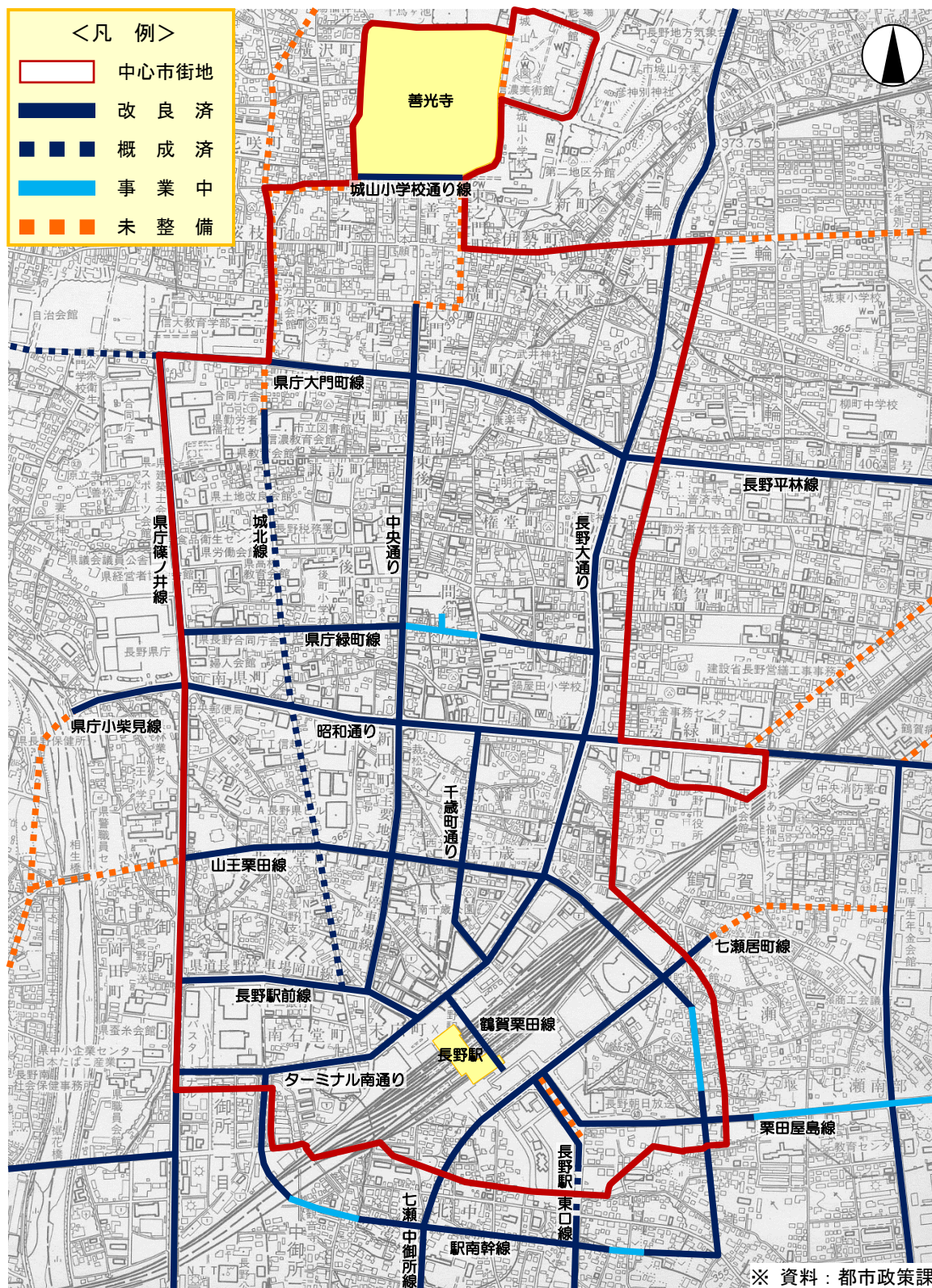


新田町交差点

4 都市計画道路

中心市街地における都市計画道路については、市の交通セル計画に基づく外環道の整備・供用が進みつつあるが、建物の区画となる補助幹線の整備は未だ十分でない。

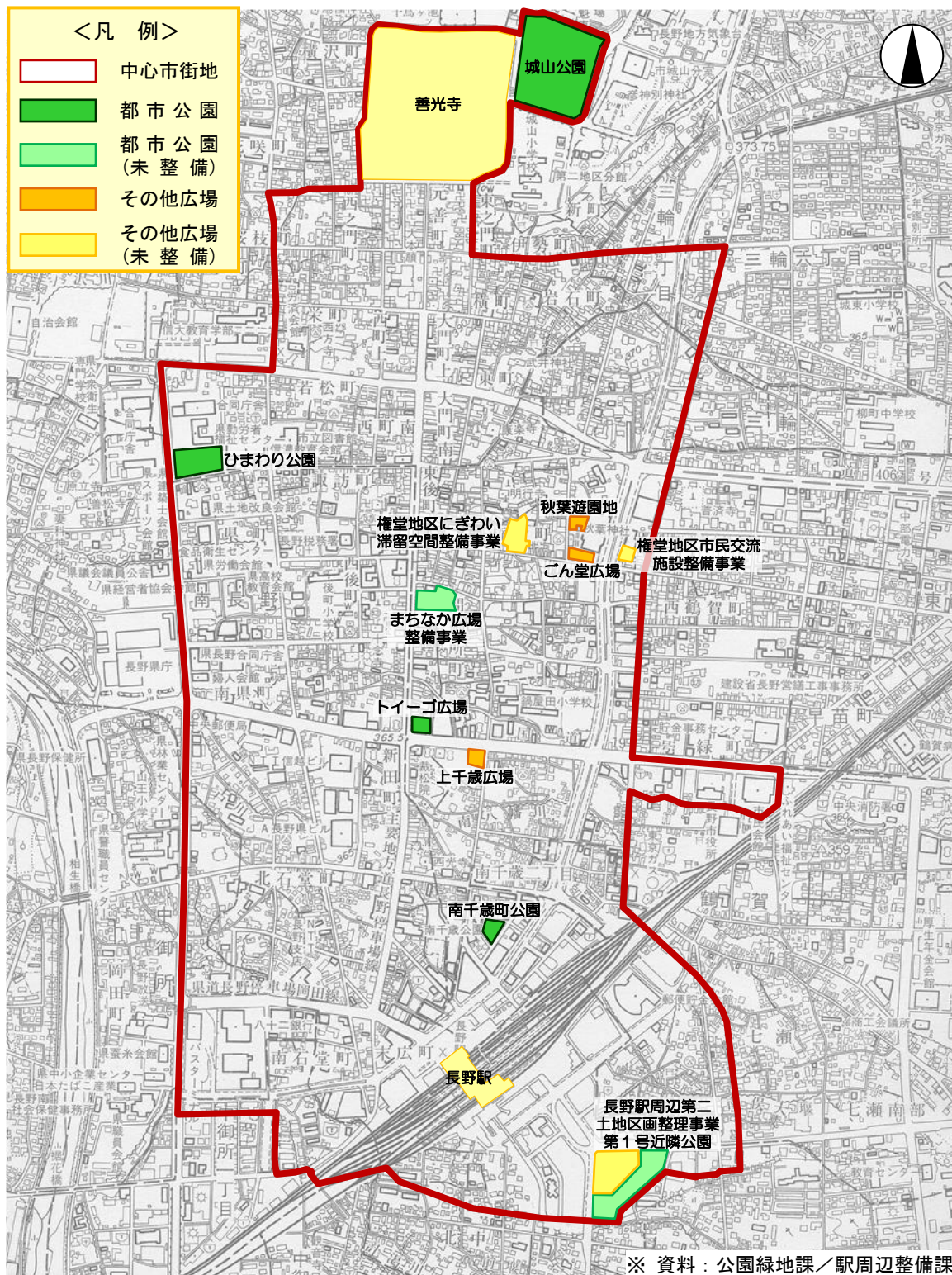
また、門前町かつ大戦災や大火を逃れていることで、生活道路が基本的に小路、いわゆる「一間道路」により構成されており、円滑な通行や宅地接道を阻害し、土地活用を停滞させているばかりでなく、地域防災・防火の観点からも好ましくない状況にある。



5 都市公園及び広場

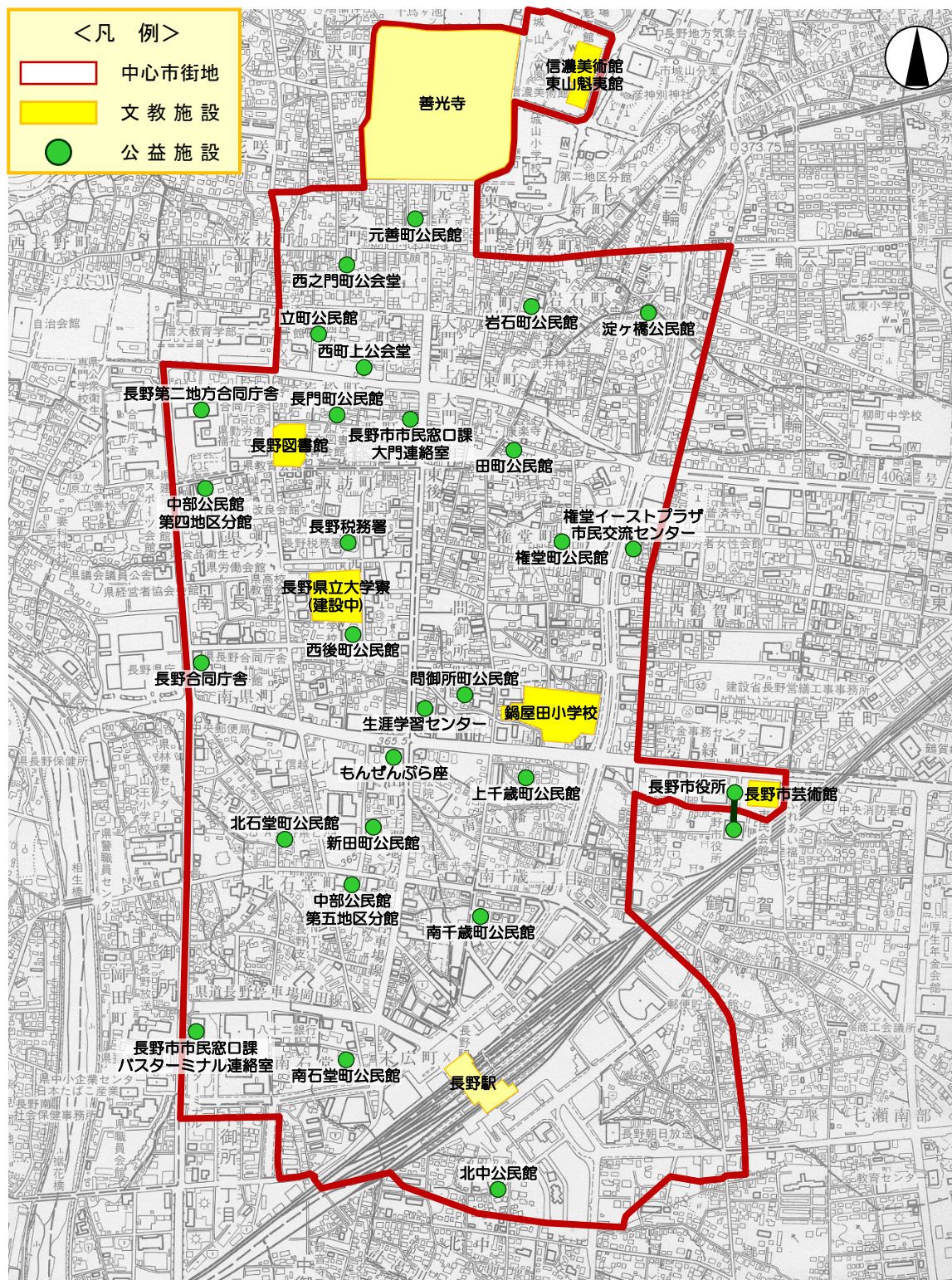
中心市街地における都市公園及び広場については、公園と広場が3箇所ずつの僅か6箇所にとどまり、街区公園としての面積は8,702㎡と、まちなかで人を滞留させ、憩いと潤いを提供する空間が著しく不足している。

第3章第2節に述べるように、新たな計画に当たっては、中心市街地の区域に城山公園の一部、約35,000㎡を追加するものの、それによる増加分を含めても一人当たりの公園面積は4.64㎡/人と、長野市全体における比率8.55㎡/人の約54.3%にとどまる。



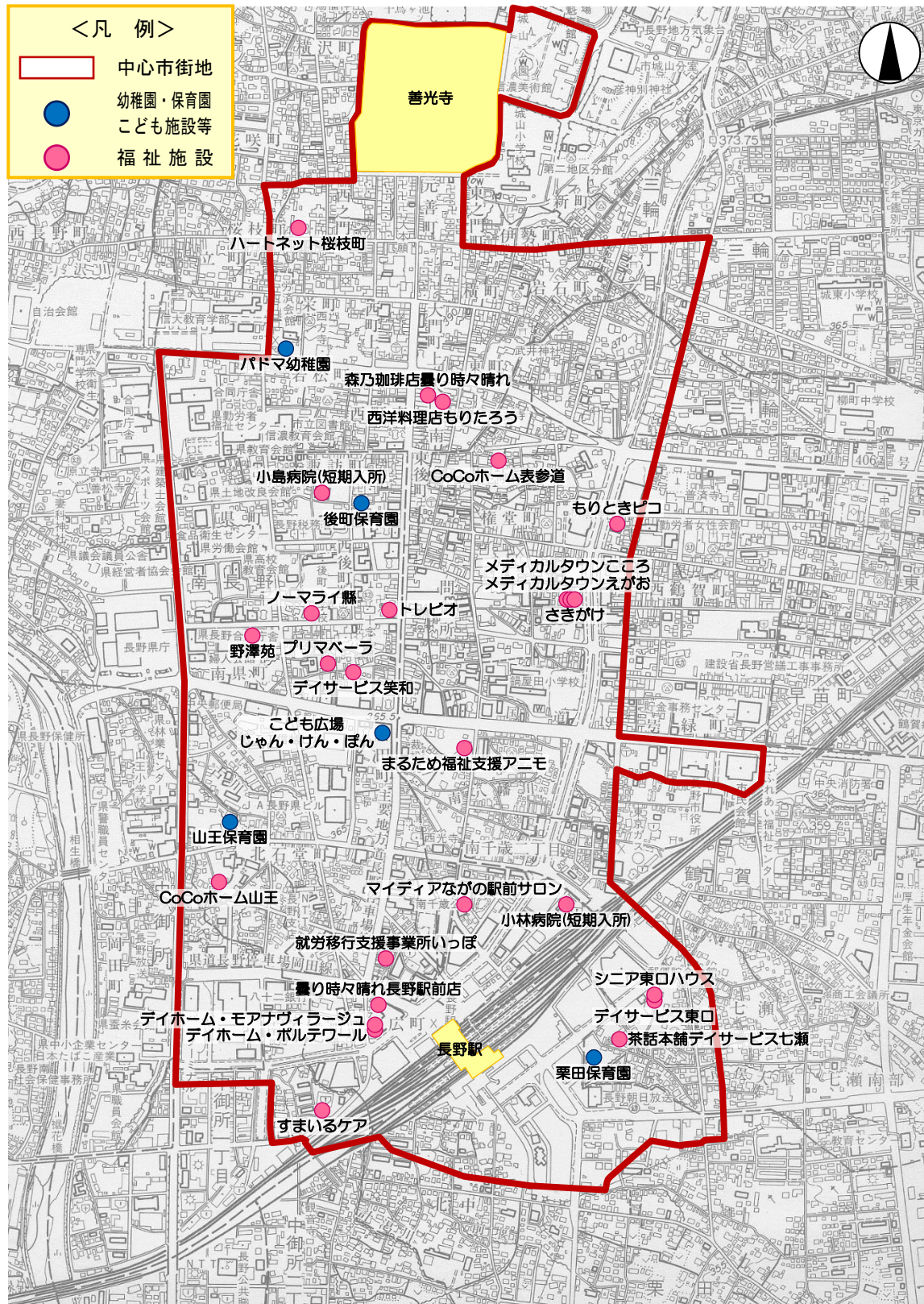
6 都市福利施設等 ①（文教施設、公益施設）

中心市街地における都市福利施設のうち文教施設・公益施設については、平成23年11月の長野市民会館閉館、平成25年3月の後町小学校閉校により、一時的には文化活動の停滞と賑わいの喪失を招いたものの、長野市民会館跡地で平成28年5月に長野市美術館の供用が開始されるとともに、後町小学校跡地では平成30年4月に開学する長野県立大学が後町キャンパス象山寮（学生寮）を建設中であり、更には長野県信濃美術館の全面改築が方針決定されるなど、更新と再配置が進んでいる。



7 都市福利施設等 ②（幼稚園・保育園・こども施設等、福祉施設）

中心市街地における都市福利施設のうち、幼稚園・保育園・こども施設等及び福祉施設の整備については、特に福祉施設において、まちなかの空き家や空き店舗を利用した小規模な事業所が増加しており、高齢化の進展に比例してサービスの需要が拡大しているものと推察される。



8 都市福利施設等のうち、公営施設の用途・規模一覧

施設名	所管	用途	規模 (延床面積)
長野第二地方合同庁舎	国	行政事務所	9,800㎡
長野税務署	国	行政事務所	2,300㎡
長野県長野合同庁舎	県	行政事務所	7,427㎡
長野県立大学後町キャンパス象山寮（建設中）	県	学生寮	6,400㎡
長野県信濃美術館	県	美術館	3,096㎡
東山魁夷館	県	美術館	1,698㎡
もんぜんぷら座	市	その他公共施設	23,941㎡
長野市役所第一庁舎	市	行政事務所	15,988㎡
長野市芸術館	市	その他公共施設	12,510㎡
長野市立鍋屋田小学校	市	小学校	5,468㎡
長野市立長野図書館	市	図書館	4,959㎡
長野市生涯学習センター	市	公民館	3,357㎡
長野市山王保育園	市	保育園	1,110㎡
こども広場じゃん・けん・ぽん	市	こども施設	860㎡ ※ もんぜんぷら座 と重複計上
権堂イーストプラザ市民交流センター	市	その他公共施設	710㎡
長野市立中部公民館第四地区分館	市	公民館	484㎡
長野市立中部公民館第五地区分館	市	公民館	396㎡
長野市後町保育園	市	保育園	390㎡
長野市市民窓口課バスターミナル連絡室	市	行政事務所	77㎡
長野市市民窓口課大門連絡室	市	行政事務所	41㎡